

第 11 回基礎情報学研究会報告

2014 年 12 月 20 日

情報システム学会基礎情報学研究会

事務局 高田信夫

1. 日時：2014 年 11 月 15 日（土）14：00～17:00
2. 場所：コンピュータソフトウェア著作権協会会議室
3. 参加者：16 名
4. 講師：河島茂生氏（聖学院大学）、椋本輔氏（横浜国立大学）
5. テーマ： インターネット上の集合性／人格に関するネオ・サイバネティクスの考察
6. 講演概要：

2013 年 8 月に発生した「2ちゃんねるの個人情報流失事件」に対する 2 チャンネル上の 35 万件以上の書き込みによるコミュニケーションの定量的な分析を行った。

その結果、

- ①この事件においては巨視的な観点からすると単一の社会システムが生起したように見えるが、微視的に観察すると漏えい情報拡散派と漏えい情報抑止派の複数の社会システムが攻防を繰り広げていた。
- ②この漏えい情報事件に対する 2 ちゃんねる上の攻防が進む中で、匿名性が強い状態での発言が本人と関連付けられ、人格の一元化が見られた。

という報告があり、この結果から導かれるネット上の人格形成について、ネオ・サイバネティクス理論による考察の発表があった。

この講演を受けて、その後の質疑応答では以下のような意見が出された。

- ・情報システムにおける問題発生時の責任の在り方
- ・単なる炎上問題との今回の問題の比較
- ・ネットに参加する人々の成果メディアの問題
- ・スマートフォンの普及に伴う IT 機器との接し方の変化
- ・電子メールと LINE による人格形成の違い

特に、LINE の問題については、今回のような分析をすることができないかという要望も出された。

以上